

## shiwase2022 報告

主任 渡部 博志



今回の告知用ポスター▲

毎年、国際幸福デー（3月20日）にあわせて開催している shiwase シンポジウム。武蔵野大学しあわせ研究所が、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科ウェルビーイングリサーチラボとの共同開催の形で携わって今年で4年となりました。

昨年は2日間開催でしたが、今年は3月19日～21日の3日間の開催となりました。また、昨年と一昨年はコロナ禍の影響でオンライン開催となりましたが、今年は基調講演については有明キャンパス3号館3階大教室を会場とした対面実施を行うと共にそれを同時配信するハイフレックス型での開催となりました。来場者が密になることを避けるため、来場希望者は事前に登録する形とし、教室の収容定員の半数を上限に電子チケットを発行しました。これまでに学内で実施している感染防止策を講じることで3年ぶりに参加者を学内会場に招くことができました。

自分だけが幸せであればよいという利己的なものではなく、同時に他者の幸せのために自分自身に犠牲を強いて尽くすことも幸せの形として目指すものではないという幸福学での知見に根ざし、今年はテーマと

して「みんなでしあわせをシェアしよう」を掲げての開催となりました。

3日間の開催期間中、基調講演が8件、ワークショップが102件、学会発表が23件、その他に特別企画等が14件と、約150ものコンテンツが催されました。その中で、「仏教と科学と幸せ」と題した基調講演で、しあわせ研究所所長でもある西本照真学長が、前野隆司氏（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授、しあわせ研究所客員研究員）とネルケ無方氏（曹洞宗僧侶）との鼎談を行い、幸せについて仏教がどのように捉えるのか、深く考える時間となりました。

また、しあわせ研究所では例年と同様、Musashino SDGs Award\*の受賞者による活動報告《Musashino SDGs Award から「世界のしあわせをカタチに」しよう！》を行いました。

会期が3日間と延びたことで、shiwase シンポジウムのコンテンツも更に多彩になりました。コロナ禍で活用が進んだオンライン開催の手法は、たとえば自然環境について取り上げる企画が都内某所の公園から配信をしたり、基調講演においても有明キャンパスの会場とオンライン上での登壇者との対談を実施するなど、これまでになく企画の実現へとつながりました。ハイフレックス型ゆえの諸問題にも直面しましたが、改善課題として受け止め、来年が更なる盛会となることを期待したいと思います。

※第4回 Musashino SDGs Award については次号でご報告予定です。